第四講〈論説〉選択肢型　日本文化論

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

　建前と本音という言い方がこの頃しきりと使われるが、この場合ややもすれば、建前は表向きのことで云(い)わば嘘であり、本音こそ本当であるという意味合いが含まれていることが多い。したがってあることが建前に過ぎないと云えばその価値を否定したことになり、本音が出たということではじめて安心するほどである。しかしこのような傾向はもともと以前からあったとは思われない節がある。というのは言葉の由来から見て、建前本音という場合の建前と、家屋の建築で棟上げのことをいう建前とは、本来同じ言葉であったにちがいないと考えられるからである。すなわち棟上げの際は、建築主は棟梁(とうりょう)とその手下たちに酒食を饗(きょう)応(おう)するほど、これは大事な機会とされている。なお茶道で抹茶をたてる御作法のことを点前(タテマエ)と云うのも、やはり同じ言葉なのであろう。ともかく建築でいう建前にせよ、茶道でいう点前にせよ、それが無ければ家屋も建たず茶道も行われない重要なものなのであるから、もし建前と本音という場合の建前がもともとこれと同じ言葉であるならば、それが重要でないはずはないと云うことができるのである。

　実際、建前と本音という場合の建前を辞引きで引いてみると、本来的なこととして決まっている方針原則のたぐいをさすと出ている。したがってもちろん重要でなければならないはずだが、ただこれには人々が合意して決めたものという意味が入っているので、くつがえされることもあり得ることになる。「建前に過ぎない」という現代的感覚が生れたのは、恐らく<u>そのことが</u>(A)関係していると思われるのである。

　そこで次に建前という言葉の実際の用法について見てみよう。例えば「本校は全寮制が建前である」「男女平等の建前を通す」「日本は建前として戦力を保持できないことになっている」などが考えられるが、その他辞書に出ている歌舞伎(かぶき)の台詞(せりふ)などを見ても、建前が取り決めによって作られるものであることは明らかだと思う。なお戦時中の座談会で木下杢(もく)太郎が次のようにのべているのを私はたまたま発見した。

「一般には科学小説といふ名前だけでは、どう云ふ立前のものかよく理解しないでせうから、第一に科学小説なるものの境界

をはっきりと付ける必要があると思ひます。」これなども建前が人々の合意によって作られることをよく示している。そしてBそのように考えると、ここで云う建前が建築上の建前や茶道の点前ともともと同じである所以(ゆえん)がもっとはっきりするように思われるのである。

これを要するに建前は、常にその背後に建前において合意する集団が存在することを暗示する。これに対して本音の方は、集団に属する個人が、建前に合意はするものの、それとは別に、建前の背後で持っている思惑のことである。あるいは建前についての各自それぞれの考え方が本音であるといってもよいだろう。建前はオモテに現われているが、本音はウラに隠れている。建前があることによってはじめて本音が存在すると見ることもできるし、あるいは陰で本音が建前を操作していると見ることもできる。このようにC建前と本音は相互規定的ないし相互補完的な関係にあって、一方なくして他方が存在することはあり得ない。これは丁度建築の建前において棟を上げるのはそれ自体が目的ではなく、そこに屋根をかけ、壁を作り、床を張るためだと云える反面、他方では屋根をかけ壁を作り床を張れるのは、基礎固めが終り棟上げが出来ていればこそであるという云い方もできるのと同じ趣向である。

この点をもっと具体的な例で説明するために、報道機関が輿論(よろん)を喚起すべくキャンペーンを起こす場合を考えてみよう。このことが許されるのは言論の自由が保証されているからであって、その意味では言論の自由がマスコミの建前である。しかしある特定の報道機関がある特定の問題についてキャンペーンを起こすのは、秘かに自社の利益に都合のいいように輿論を操作したいためであるかもしれないし、あるいは担当の記者個人が昇進を願ってのことなのかもしれない。この場合このような隠れた動機をさして本音であると云うことができるのである。

誤解のないように云っておくが、以上の例で、建前は道徳的に善だが本音は悪であると云いたいのではない。また、本音は本当だが建前は口実に過ぎないと云いたいのでもない。そういう場合も少なくないかもしれないが、しかし本質的には建前と本音が【甲】的な関係にあり、一方なくして他方はないことを云いたいのである。先の例で云えば、言論の自由とはまさに各自が勝手なことを云うだろうという予想のもとに、それを言論の自由という枠の中で保証するものであり、したがって誰もが言論の自由を持っているという建前を守る限り、それぞれ自分の本音に基づいて発言してよいということなのである。

ところで建前と本音の区別は、必ずしも常に本人によって自覚されているとは限らないという点を指摘しておこう。例えば、

ある教師が自分の監督下にある一人の女子学生に親身な指導を行っているとする。この場合、学生を指導するのは教師の義務であるから、この教師の行為は教師としての建前に忠実に従った結果であると解することができる。しかし彼の言動を仔細に検討すると、実は彼がひそかに女子学生に個人的な感情を寄せていることが明らかになるかもしれない。そして彼自身もしそのことをはっきり自覚していればそれが彼の本音であるが、しかし彼自身は、自分はもっぱら教師としての義務を果しているだけであって、別に本音はないと主張することもありうる。

同じようなことがボランティア活動に熱心な主婦についても言うことができよう。彼女はもちろん、社会奉仕の精神に目覚めてボランティア活動を行っているわけだが、しかしそれとは別に家庭的に問題があって、家事や家族から逃げ出したいために特にボランティア活動に熱心なのかもしれない。そして彼女はそのことをはっきり自分の本音として自覚していることもあり、あるいはそれが認められないでいることもある。因み（ちなみ）に正義の名のもとに、D個人としてはおとなしい人間が威丈高に他人を糾弾する場合は、当の本人は建前ばかりを自覚して、本音は他にないと思っていると見てまず間違いはない。およそ正義の名によって行われるものは、大は戦争から小はマスコミのキャンペーンにいたるまで、当事者によって本音が本音として認められることはほとんどないと云って過言ではないのである。

ここで念のため今一度繰返すが、以上あげた三つの具体的例において、建前は善いが本音が悪いと云いたいのではない。また事柄の性質上、建前は表に出すもので、本音は出さないものなのだから、本音が内に隠れていること自体が悪いのでもない。ただ当の本人が自分の本音に気付かず、敢（あ）えてこれを否定することが困るのである。というのは、E本音の存在に気付かないと、これをコントロールすることができなくなり、その結果、本音が極めてグロテスクな形でのさばることになるからである。

（土居健郎（どいたけお）『表と裏』弘文堂。ただし、本文に一部省略がある。）

問1　傍線部A「そのこと」とは何か。最も適切なものを一つ選びなさい。

1　建前は本来的なこととして決定されたことである。
2　建前は決定された重要なことである。
3　建前は人々が合意して決めたことである。
4　建前はくつがえされることもある。

問2　傍線部B「そのように考えると……思われるのである」とあるが、なぜか。最も適切なものを一つ選びなさい。

1　そのことによって一つのものごとの土台や大枠が作られるという点で共通性を持つから。
2　あるものごとにおいてすべての始まりであり、端緒であるという点で最も重要であるから。
3　一つの集団が形成され、表面的な一体感がそこに生じて来るという点で共通性を持つから。
4　しっかりした概念規定を行うことと、建物を建てたりお茶を点てることは類似の行為であるから。

問3　傍線部C「建前と本音は相互規定的……一方なくして他方が存在することはあり得ない」とあるが、どういうことか。最も適切なものを一つ選びなさい。

1　建前が集団の取り決めによって形成される一方で、本音はそれを補完するものとして形成されてくる。
2　建前が合意として形成される陰には個々の人々の本音があり、本音と建前は互いに支え合っている。
3　建前が存在するのは、それ自体が大事だからではなく、それによって本音を達成するためである。
4　建前が出来るとその陰にそこから排除された個々の本音が生まれ、建前を通してそれを達成しようとする。

問4　空欄 甲 に入る語として最も適切なものを一つ選びなさい。

1　対照　2　対称　3　対比　4　相補　5　相即

問５　傍線部Ｄ「個人としては……本音は他にないと思っていると見てまず間違いはない」のはなぜか。最も適切なものを一つ選びなさい。

１　社会正義に燃える人間には、自分の利益を追求する傾向はないから。
２　他人を責める人間は、一様に自分の正義を確信しているものであるから。
３　本人が自分の隠れた動機に気付いていないからこそ、声高に主張できるから。
４　当人によって自覚されていない本音は、すでに本音とはいえないから。

問６　傍線部Ｅ「本音の存在に気付かないと……本音が極めてグロテスクな形でのさばることになる」のはなぜか。適切でないものを一つ選び、マークせよ。

１　本音に気付いていないと、その本音が当人の意識しないところで支配的になってしまうから。
２　本音に気付いていないと、その本音は建前を圧倒して、ついには本音が建前となるから。
３　本音に気付いていないと、建前の正しさを過信し、自分が完全に正しいつもりで暴走するから。
４　本音に気付いていないと、その本音が膨れ上がって、押さえがまったくきかなくなるから。

問７　本文の内容と合致するものを一つ選び、マークせよ。

１　本音とは建前の陰に隠れた本当の動機であり、気付かれないままに建前を支配している。
２　本人によって自覚されないものは本音ではないし、その場合、建前と本音の区別は存在しない。
３　建前は人々の合意によって形成されるものだが、その裏には個々の本音がはりついている。
４　建前は本音を覆い隠して、人間の悪を呼び覚まし、困った事態を引き起こすものである。

第四講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　土居健郎＝どい　たけお（一九二〇～二〇〇九）東京生まれ。東京帝国大学医学部卒。陸軍軍医、聖路加(せいるか)国際病院精神科医長、東大医学部教授などを務めた。精神科医・精神分析学者。日本人のメンタリティの研究書である『「甘え」の構造』はベストセラーになり、その後多くの外国語にも翻訳されている

●木下杢太郎＝きのした　もくたろう（一八八五～一九四五）静岡県生まれ。東京帝国大学医科大学卒。医者兼詩人・劇作家。文学方面で森鷗外の指導も受けている

語句

棟上げ＝むねあげ→家を建てる時、骨組みが完成して棟木とよばれる屋根用の木材を設置すること

棟梁＝とうりょう→大工のリーダー

饗応＝きょうおう→ごちそうでもてなすこと

所以＝ゆえん→物事の由来や理由

暗示＝あんじ→はっきりとではないがそれとなく示す。対義語は「明示」

輿論＝よろん→世間の一般市民の考え。世論(せろん)と同義で使われることもあるが、輿論はパブリックオピニオンで、世論はもっと一時的で感情的なポピュラーセンチメンツであるとして区別する考え方もある

キャンペーン→組織的な宣伝活動

仔細・子細＝しさい→細部までくわしいこと

もっぱら＝専ら→それればかり
威丈高・居丈高＝いたけだか→相手を押さえつけるような上から目線の態度
糾弾＝きゅうだん→相手の罪などを非難、攻撃すること
グロテスク→見ていられないほどひどく美しくない様子

復習問題　第四講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）全リョウ制の学校に入学する　①僚　②療　③瞭　④寮　⑤稜

（イ）土地のキョウ界に印をつける　①協　②競　③境　④鏡　⑤郷

（ウ）法律の条文にキ定されている　①規　②機　③喜　④企　⑤期

（エ）相互にホ完し合う関係になる　①保　②補　③舗　④穂　⑤捕

（オ）油断せず注意をカン起する　①換　②喚　③観　④韓　⑤寛

（カ）関連した文献をシ細に調べる　①仔　②孤　③詞　④司　⑤誌

（キ）業績により課長にショウ進する　①賞　②翔　③衝　④昇　⑤召

（ク）イ丈高で不遜な態度をとる　①威　②位　③異　④維　⑤遺

（ケ）公務員としてのギ務を果たす　①儀　②義　③犠　④技　⑤議

（コ）権力の横暴をキュウ弾する　①求　②及　③糾　④究　⑤窮

第四講　模範解答

問1　4
問2　1
問3　2
問4　4
問5　3
問6　2
問7　3

復習問題　第四講　模範解答

（ア）④　（イ）③　（ウ）①　（エ）②　（オ）②
（カ）①　（キ）④　（ク）①　（ケ）②　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）全寮制　（イ）境界　（ウ）規定　（エ）補完　（オ）喚起
（カ）仔細・子細　（キ）昇進　（ク）威丈高・居丈高　（ケ）義務　（コ）糾弾